

学位論文の要旨

所 属	三重大学大学院医学系研究科 生命医科学専攻 環境社会医学講座	氏 名	郭 鵬
主論文の題名			
Mortality and life expectancy of Yokkaichi Asthma patients, Japan: Late effects of air pollution in 1960–70s			
主論文の要旨			
<p>1960年代初期、三重県四日市市では慢性閉塞性肺疾患（COPD）と気管支喘息の罹患が増加し始めた。大気汚染（硫黄酸化物による）を原因とするこの疾病の過剰発生は四日市喘息として知られるようになった。大気汚染は1970年代末には著しく減少し、新規認定患者は1988年以降報告されていないが、大気汚染の継続影響を明らかにするため、認定患者の死亡率と平均余命を1975～2000年について解析した。研究では、四日市市より提供された1973～1988年に認定を受けた公害患者1232名（生存518、死亡714）の性、生年、認定および死亡年月日、死因、および認定疾病名のデータを用いた。これより、年次別の認定患者の年齢調整死亡率（間接法）を、基準集団（三重県）の年齢階級別死亡率と認定患者の年齢階級別人数および総死亡数を用いて算出した。また、これらについてChiangの方法を用いて1975～2000年の5年ごとの生命表を作成した。さらに、特定死因を除去した場合の年齢階級別の平均余命の伸びをJordanの計算式を用いて求めた。除去した特定死因は慢性気管支炎、肺気腫、喘息、肺炎および急性気管支炎である。</p> <p>この結果、四日市公害認定患者ではCOPDおよび喘息による死亡率が三重県の全体より有意に高く、またすべての年齢階級で男女とも平均余命が三重県全体より短縮していることが示された。呼吸器疾患による死亡を除去した場合の、年次別の平均余命の伸びは、認定患者においては、男性で平均2.3-3.3年、また女性で平均1.5-4.2年であった。これに対し、三重県全体ではいずれの年次も0.65年未満であり、平均余命の伸びが認定患者では三重県全体より大きかった。</p> <p>四日市公害認定患者の平均余命が三重県全体のそれに比べて短縮している主因がCOPDおよび喘息を含めた呼吸器疾患であることが考えられる。大気汚染がすでに解決されたにもかかわらず、認定患者のCOPDおよび喘息をはじめとする呼吸器疾患による健康影響が継続していることが示唆された。</p>			

(注) 2, 000字以内にまとめて記入すること。